

審査第二部生産機械における フリーアドレスの導入について

審査第二部生産機械 山下 浩平

1. はじめに

特許庁では現在、働き方改革の一環としてフリーアドレスの導入を進めています。審査第二部生産機械では、審査部にフリーアドレスを本格導入する第1陣として、審査第一部の事務機器とともに2020年12月からフリーアドレスを導入しました。前例がなく手探りでのスタートでしたが、1年半を経過して大きなトラブルもなく審査部でフリーアドレスが有効であることを確認できたものと思います。私は2020年10月の準備段階から現在まで、庶務担当の一人としてフリーアドレスの導入に携わってきましたので、生産機械におけるフリーアドレス導入の経過についてご説明します。

なお、本文中に記載されている内容につきましては、筆者個人の見解等に基づくものであり、特許庁の見解等ではございませんので、あらかじめ御了承下さい。

2. フリーアドレス導入に当たった考え方

各審査官が多くの仮包装袋を持ち、日々受け取ったり提出したりしていくという書類の取り扱いの多い職場、指導審査官と審査官補の日々のマンツーマンの協議に加え、コロナ禍でテレワークが増えた勤務形態といった審査部特有の職場環境で、審査業務に支障を及ぼすことなくフリーアドレスを円滑に導入することを最大の目標として導入検討をスタートしました。

一般にフリーアドレスの効果としては、

- ・グループにこだわることなく幅広いコミュニケーションをはかる
- ・職場環境に変化を持たせ、目的によって席を使い分けられるようにする

- ・職場のスペースを減らす

ことなどが挙げられています。

生産機械においても、

- ・フリーアドレスによる幅広いコミュニケーションで、中央の通路で2つに分かれていることによるグループ間の見えない壁を取り払って生産機械（略称：CPU）としてのまとまり（One CPU）を出す
 - ・「ニュースタイル」の席（後述）を導入して、目的によって席を使い分けられるようにする
 - ・在籍人数よりも席を減らして省スペースをはかることに加え、
 - ・フリーアドレス導入の第一弾として、種々の工夫を試して審査部に適したフリーアドレスのノウハウを探る
- ことも目標としました。

3. 導入の準備段階

(1) 試行

導入に先だって数名の有志によるフリーアドレスの試行を1ヶ月程度行いました。試行では各個人の感触はある程度わかりましたが、組織全体としての課題（訪問者が誰がどこにいるかわかるのか、座席表の運用方法など）は、ある程度の期間と参加人数で試行を行わないと十分な洗い出しは困難でした。

また、荷物の収納についても、実際に想定されるスペースを割り当てて私物や仮包装袋を移動してみないと、収納スペースが十分かという判断は困難でした。

そこで、特に導入の初期段階では運用ルールを柔軟に変更することを前提に、いろいろな意見を集めながら改善を進めていくこととしました。

(2) 情報の共有

6つのグループそれぞれに個別の説明会を数回ずつ行って、そのときに出た質問はその場で、または後日回答するとともに、すべての質問をQ&Aとして全体に公開して共有していきました。

また、Outlook（メールソフト）の投票機能を使ったアンケート調査、SharePoint（情報共有サービス）の掲示板機能なども活用して、意見交換や情報共有を進めていきました。

特に掲示板機能は、導入前のみならず導入後も改善点の洗い出しなどで大いに役に立ちました。昨今のICTツールの充実で、情報の共有はかなりやりやすくなったものと思います。

(3) 荷物の整理

私物を鞆に入れて自宅に持ち帰るにしても一度に運びきれない場合もあり、過去の資料を断捨離するにもひとつひとつ内容を確認する必要があります。荷物の整理にはかなり時間がかかります。

そのため早めに各審査官が使える収納スペースを案内して、それに収まるように私物や資料を整理していってもらうことが重要と考え、個人ロッカー、壁面ロッカーなども実際の大きさ、サンプルなどを早めに提示して、積極的に荷物を片付けてもらうよう働きかけを行いました。

(4) 「ニュースタイル」の席の見本

机を高くした状態を段ボール等で作った電動昇降席の見本を作ったり、パーティションを寄せて集中席の見本を作ったりして、審査官にイメージを持ってもらうと共にフリーアドレス導入の雰囲気作りをはかりました。

4. 座席の種類

生産機械では、フリーアドレスの座席の種類として

・通常の席（従来と同様の席）

審査官用 41席、管理職 4席、補助職員・調査員 4席

・「ニュースタイル」の席

電動昇降席 4席、集中席 2席を設定しました（従来は、管理職・品質管理官 7席、審査官 40席、補助職員・調査員 6席）。

電動昇降席はスイッチで机の高さが変更可能な席で、机を自分の好みの高さに設定することにより立って審査を行ったり、従来どおり座って審査を行ったりと、気分や疲れに応じていろいろな姿勢を取ることが出来ます。

集中席は周囲を防音パーティションの壁で囲った席で、他人の声や人影を気にすることなく集中して審査を行うことが出来ます。また従来分断しがちであった通路の向こう側のスペースには、多くの人が交代で使用することを想定してこれらの「ニュースタイル」の席をまとめました。

5. 座席の決め方

(1) 選択できる範囲

導入当初は完全にフリーとすることに若干の不安があり（審査官も導入担当も）、自由に選択できる席のエリアを最初は狭くしておき、だんだんと広げるようにしました。

①グループ単位フリーアドレス

（2020/12/20～2020/12/28）

通常の座席はグループ単位（6～8名）のフリーアドレス、「ニュースタイル」の席は2時間単位で選択可能としました。

②技術単位フリーアドレス

（2021/1/4～2021/1/15）

各人がフリーアドレスに慣れ、コミュニケーションにも特に大きな問題もなかったので、技術単位（グループ2つ分）でのフリーアドレスに移行しました。また、「ニュースタイル」の席もそれほど集中はしなかったため、通常座席と同様に終日使用可能としました。

③審査長単位フリーアドレス（2021/1/18～）

フリーアドレス導入から約1ヶ月後、審査室内のどこでも自由に選択できる完全なフリーアドレスに移行しました（なお管理職3名、補助職員4名の席は固定席としています）。

(2) 予約（2021/1/4～）

導入当初は予約なしでスタートしましたが、「翌日も同じ席に座りたい」「朝早く登庁しないと希望の席に座れない」などといった予約の要望が多く、導入後2週間で予約を開始しました（予約の方法は

「6. 座席表」を参照。)。1週間通しで予約したいという意見もありますが、長期の予約を可能にすると座席が固定してしまう恐れもあるので、いまのところ予約は翌日のみとしています。また指導審査官と審査官補とは、予約を使って隣接する席を確保するように運用しています。

6. 座席表

座席表はいろいろな方法を試行しました。

(1) 手書き方式 (2020/12/20～2021/1/11)

(図1 (図はすべてイメージです))



図1

導入当初は、混乱を避けるためもっとも原始的な「手書き」の座席表でスタートしました。イントラネット上での閲覧のためにスキャンしてpdf化、履歴の保存には紙を毎日ファイルに綴じて保管しました。意外にもそれほど大きな問題はありませんでした。「走り書きで字が読みづらい」「いちいち書くのが面倒」、「予約をしたい」などの意見がありました。

(2) マグネット方式 (2021/1/12～2021/10/15)

(図2)

読みづらい点や書くのが面倒という点を解消するため、個人名を印刷したマグネットを用意してお

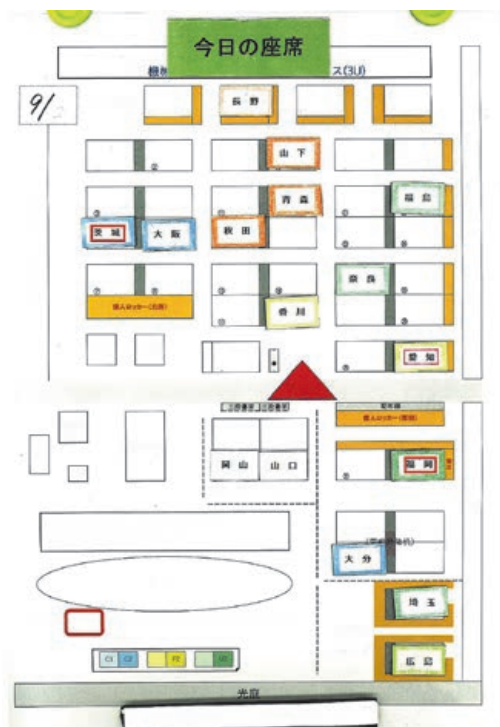


図2

き、毎朝貼ってもらうマグネット方式を導入しました。履歴を残す方法が課題でしたが、いろいろと試した結果座席表を貼ったホワイトボードごと複合機でスキャンできることがわかり、pdf化してイントラでの閲覧、履歴の保存を行うこととしました。

また、当日の座席表の横に翌日の予約用の座席表を並べて貼り、手書きで名前を記入することで翌日の予約もスタートしました(当日最初の登庁者が座席表を貼り替え)。

(3) Excel方式 (図3)

イントラネット上の共有フォルダに各人がアクセスして氏名を入力するExcelの座席表を作りましたが、同時アクセスによる不具合の可能性が排除できなかったこと、予約機能を盛り込んだところファイルが非常に重くなってしまったことから、導入を断念しました。

(4) Web版座席表 (2021/10/16～) (図4)

Excelの座席表が挫折したため、cgiを使ったWeb版座席表を半年ほどかけて開発し、導入しました。ブラウザでアクセスして自分の座席にプルダウンで氏名を入力する方式で、翌日の予約も同じようにして登録できます。

イントラネット上で動いているので、在宅のテレ



図3

定も同時に表示したり、履歴をWebで閲覧したりといった多機能化が可能となり、ワンストップで勤務状況が確認でき電話の取り次ぎ等も便利になりました。

Web上で座席表を表示する審査室が増えて互いにリンクすれば、他室を訪問する際も事前に登庁・座席の確認もでき、さらに便利になるものと思います。

7. まとめ

(1) 現在の状況

①座席の状況

現在のところ、予約率（前日に予約した人数／登庁人数）は概ね50%前後で、半数が前日に予約、半数は朝に席を決めています。

予約していつもの席に座る人だけでなく、空いていればいつもの席に座る人も多いようです。大きな弊害があるわけではないのでこのままでいいのか、いろいろな人とコミュニケーションをはかれるようもう一段なんらかの方策を考えた方がいいのか、悩むところです。

②「ニュースタイル」の席

「ニュースタイル」の席の予約率は概ね80%程度で、多くの人予約して座る人気の席となっています。この割合を見ると（予算の都合もありますが）、もう少し「ニュースタイル」の席の数が多くてもよかったかもしれません（いまのところ朝に翌日の予約をすれば取れる程度で、予約がずっと埋まってしまいうことはないようです）。

また、当初は集中席をオンライン対話に使えるのではないかと考えていましたが、生産機械で導入した集中席は上部が開放されたものだったので会話の声が漏れてしまいました。そのため現在では主に、「周囲の人の気配や雑音を気にせずに集中して審査の出来る席」として利用されています。

③異動者への対応

登庁初日の朝に30分程度フリーアドレスの説明をして個人ロッカーを案内しています。この説明だけでその後は特に問題なく使えているようです。

(2) フリーアドレスのメリット

①座席を自由に選べる

そもそものフリーアドレスのメリットですが、好



図4

ワークからでも翌日の予約ができること、ログを自動的に取得して履歴を残せること、グループ長や技術情報管理官などの情報も名前とあわせて表示できることなど、多くのメリットがあります。

さらに、デジタル化したことで座席表とともに登庁していない人の氏名を表示したり、休暇・出張予

みやその日の気分に応じて自由に席が選べるようになりました。

決裁棚や自分のロッカーに近い席、集中して審査ができる席、プリンタに近い席、グループの人と近い／遠い席、管理職と近い／遠い席、冬場に暖かい／夏場に暑くない席、朝日／夕日がまぶしくない席など、座席の好みは人によって違いますが、以前は席を選ぶことが出来ず席替えもたまにしかありませんでした。

②「ニュースタイル」の席

「ニュースタイル」の席は、気分転換が出来たり審査に集中できたりと、かなり好評です。通常の審査室で何席か導入すると「誰が座るのか」という問題になるので、フリーアドレスを機に導入するのがよいと思います。

③コミュニケーション

自分のグループ以外のメンバーと話す機会が増え、審査室内の風通しがよくなりました。

④荷物

毎日荷物を片付けて帰るので、席の周りに積み上げていた仮包装袋や私物がなくなり職場の見通しがよくなって通路も通りやすくなりました。人事異動があった場合もあらためて荷物を片付ける必要がなくなり、席替え、電話、PCの設定変更などの庶務的な作業も不要になりました。

壁面ロッカーの割り振りはグループにまかせることで、転入者、転出者、審査官補など、包装袋の増減に臨機応変に対応できるようにするとともに、割り振りの結果をロッカーの扉に貼り出すことで、本人が不在で緊急の場合でも仮包装袋を探せるようになりました。

(3) フリーアドレスのデメリット

①フリーアドレスというかテレワークの課題ではありますが、近年グループ内のコミュニケーションがとりづらくなっています。グループ内での声かけ、協議、オンライン会議など、積極的にコミュニケーションをはかることが大事だと思います。

②席が替わるとATOKの辞書、V2の検索履歴、プリンタの設定などの業務系PCの設定が変わってしまうので、都度設定をし直したり検索履歴を控えておいたりしていますが、やはり不便なので、一括して設定できるツールが欲しいところです。

③Web版座席表は通路に紙でも掲示していますが、座席表を提示するデジタルサイネージがあるとペーパーレス化して印刷・貼り出しも不要となり、リアルタイム性も向上すると思います。

(4) 省スペース化

フリーアドレスでは座席の数を在籍人数より減らしているため、全員が登庁すると席が足りなくなります。そのため登庁人数を管理することが必要ですが、コロナ禍以降は登庁人数を管理しているので、特に大きな問題にはなっていません。

フリーアドレスによるスペースの削減は（長期的な）在籍人数の見込み、テレワーク率（最大）の見込みと余裕度によって決まるものですが、例えば複数の審査室間で共通に使用できるスペースを設けておくなどの工夫をすれば、ある程度ばらつきを吸収する余裕が増やせるのではないかと思います。

なお、フリーアドレスとは直接関係はありませんが、審査のペーパーレス化や応答期間の短縮が進めば仮包装袋が減り、置き場所（スライダックや個人の壁面ロッカー）のさらなる省スペース化も可能になるものと思います。

8. 所感・謝辞

当室は特許庁としてフリーアドレスを最初に導入した審査室のひとつだったので、何事も手探りで大変でした。導入機材の仕様検討や、予算もなく自分たちで地下二階の倉庫に不要な机を運んだりもしましたが、ふだんできない貴重な経験だったと思います。混乱が起きないことを優先して慎重に導入したかいもあって、フリーアドレスが大きな混乱もなく導入できたことは担当として嬉しい限りです。

最後に、フリーアドレスの導入に当たりお世話になった皆様と、寄稿の機会を下さいました特技懇編集委員の皆様は厚く御礼申し上げます。

Profile

山下 浩平 (やました こうへい)

平成26年7月 特許庁入庁（審査第二部繊維包装機械）
平成28年7月 審査官昇任
平成30年10月より現職